

本がいっぱい!



Teen's 2011

『少年少女飛行倶楽部』

加納 朋子／著 文藝春秋 《Y Fカ》

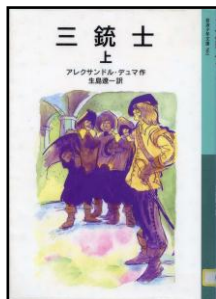
中学1年生になった海月^{みづき}は、ひよんなことから、幼なじみの樹絵里といっしょに「飛行クラブ」に入部することになった。集まった部員は、変人部長をはじめ、ひと癖もふた癖もある面々。個性をぶつけあいながら「空を飛ぶ」ことをめざすうちにいつしか…。



『三銃士』上・下

アレクサンドル・デュマ／作 生島 遼一／訳 岩波書店 《Fデ》

父からもらった老いぼれ馬に乗ってパリにやってきた若き騎士ダルタニャン。ささいなことで三人の銃士たちと諍^{いさか}いを起こすが、意気投合し親しくなる。三銃士とダルタニャンは、王と枢機卿^{すうききやう}が争う陰謀^{いんぼう}うずまく宮廷で、王を守るため命をかけて戦うことを誓う。



『上と外』上・下

恩田 陸／著 幻冬舎 《Y Fオ》

両親の離婚で離れて暮らす練と千華子の兄妹は、夏休みに父のいる中米G国に行くことになった。そこで、遺跡めぐりのために乗ったヘリコプターが、クーデターに遭い、練と千華子はジャングルの中へ落下。さまよう2人の前にニコという少年が現れ…。

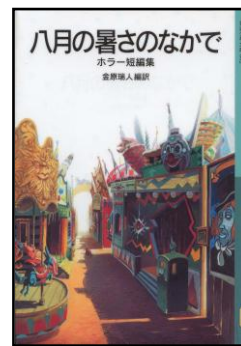


『八月の暑さのなかで —ホラ—短編集—』

金原 瑞人／編訳 岩波書店 《Y Fハ》

ジェイムズは描いた絵を持って外に出た。すると、絵とそっくりの男が展覧会用の墓石を彫っていた。そこにはジェイムズの名前が…。

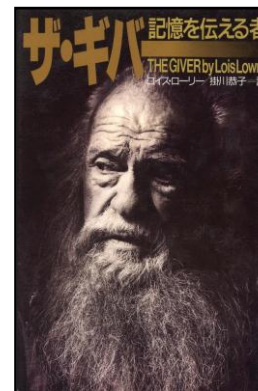
他にも、短編の名手たちによる不思議な話や怖い話、クールな短編が13編。



『ザ・ギバー —記憶を伝える者—』 《Y Fラ》

ロイス・ローリー／作 掛川 恭子／訳 講談社

飢えも争いもない平和なユートピア。子どもは十二歳になるとコミュニティーでの役割を決める“儀式”を行う。才能があるといわれたジョーナスに与えられた役割は最高の名誉とされる<記憶を受けつぐ者>。だがそれは喜びと苦痛に満ちたものだった。



『園芸少年』魚住 直子／著 講談社 《Y Fウ》

枯れ草に水をかけたら生き返った! なりゆきで園芸部員となった男子3人、篠崎 (ことなかれ主義)、大和田 (眉なし・不良?)、庄司 (頭に段ボール箱!?)。花とは縁遠いバラバラな彼らは…。

種まきも水やりも楽勝、と始めてはみたものの、園芸も高校生活も思うように芽がでない!



TOKOROZAWA PUBLIC LIBRARY

所沢市立所沢図書館 2011年

『野生動物のお医者さん』

齊藤 慶輔／著 講談社 《48》

齊藤先生の仕事は絶滅の危機にひんしたオオワシなどの猛禽類を治療することです。先生の信条は動物を治すだけでなく、野に帰すこと。山積みの課題を前に、動物と人間がともに歩める道を先生は考え続けます。



『かぎりなくやさしい花々』

星野 富弘／著 偕成社 《91.4》

中学校教師だった著者は事故にあい、首から下が全く動かなくなった。長く苦しい闘病生活を支えたのは、家族と信仰。そして、口に筆をくわえて絵を描くことだった。

『ガラガラヘビの味 - アメリカ子ども詩集 -』

アーサー・ビナード／編訳 木坂 涼／編訳 岩波書店

詩の本の楽しみ方って、そのままがぶっと味わっちゃうんだって！この本の詩を選んだアメリカ生まれの日本語詩人、アーサー・ビナードの詩の本『ゴミの日』もオススメです。

《93.1》



『優しい音』 三輪 裕子／作 せきね ゆき／絵 小峰書店 《Fミ》

仲間外れになった千波に「潮風」と名乗る見知らぬ人からメールが届く。“広い荒野の真ん中で、すくっと立って強風に立ちむかう。”メールの言葉に励まされ、千波はクラスや部活から逃げないと心に決めた。

『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティ／著 青木 久恵／訳 早川書房 《D》

さまざまな職業、年齢の男女10人に、オーエンと名のる男から兵隊島への招待状が届いた。しかし招待主オーエンは現れず、突然不気味な声、それぞれの過去を告発する。そして、古い童謡に歌われたとおり、ひとり、またひとりと、殺されていく。

『神様の階段』

今森 光彦／著 偕成社 《61》

あぜ道には星の花が咲き、田んぼの一角には神様をおまねきする場所がある。色鮮やかな稲の海原を進むと、そこは神がすむ場所・アグン山。バリ島の美しい棚田の写真集。

『煮干しの解剖教室』

小林 真理子／文 泉田 謙／写真
こばやし ちひろ／絵 仮説社 《66》

ただの煮干し・・・そんなことはありません！小さいからだには不思議がいっぱい！脳、心臓、肝臓・・・きみは見つけられるかな？終わったらかじっちゃおう！

《困難に立ち向かう君にエールを！》

『席を立たなかったクローデット』

—15歳、人種差別と戦って—

フリップ・フース／作 渋谷 弘子／訳 汐文社 《Y31》

1950年代のアメリカ。黒人は、バスの座席を白人に譲らないと、逮捕され、罰金を払わされ、時には暴力まで受けました。そんな差別に立ち向かった少女の勇気ある実話です。



『路上のヒーローたち』

《Yフレ》

エリザベス・リード／作 石谷 尚子／訳 評論社

母ちゃんが死んで、人さらいに農場へ売りとばされ、命からがら逃げ出したマモ。金持ちなのにパパが怖くて家出したダニ。2人は偶然出会い、路上で暮らす少年たちの仲間に入ります。



『ロジーナのあした —孤児列車に乗って—』

カシ・クシュマン／作 野沢 佳織／訳 徳間書店 《Fク》

家族を亡くしたロジーナは、養い親を見つけるための孤児列車に乗せられます。寂しさと不安で心を閉ざしたロジーナは、年下の孤児たちの世話をするうちに、生きる希望を見つけます。

